

# 『令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果・分析』

江戸川区立一之江第二小学校

調査日 令和4年4月19日（火）

対象学年 第6学年実施人数：124名

## 【結果】

《結果》平均正答率	国語	算数	理科
本校	76%	68%	72%
東京都	69%	67%	65%
全国	65.6%	63.2%	63.3%

## 【教科ごとの分析】

### 国語

	全体	話す・聞く	書く	読む
本校	76%	75.8%	55.6%	78.6%
東京都	69%	69.1%	51.3%	72.1%
全国	65.6%	66.2%	48.5%	66.6%

- 全ての項目において、全国、東京都いずれも平均を上回った。
- 「読む」については、全国平均を10ポイント以上も上回る結果となった。
- 「書く」については6割を切っており、他の項目と比べて点数が低い。

- 文章を読み取る際には、物語文ならば、設定や場面の転換点、人物の相関、説明文ならば、問いと答え、要旨（筆者の主張）など、視点を明確にし、適切な読みを促す指導をしていく。
- 説明文では要旨に対して、物語文では主題に対して自分の意見をきちんともち、それを段階的に発信できるようにする。
  - ①自分の考えをノートに書く。
  - ②自分の考えを言葉にして発信する（小グループ）。
  - ③自分の考えを言葉にして発信する（全体）。
- 朝読書の他、読書科の時間を有効に使い、じっくりと活字に親しめる時間を確保する。
- 特に『根拠を明確にして自分の考えをまとめて書く力』という点について重点的に指導していく。

## 算数

	全体	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
本校	68%	71.4%	72.4%	52.3%	72.6%
東京都	67%	72.1%	68.6%	57.6%	72.4%
全国	63.2%	69.8%	64.0%	51.3%	68.7%

○全ての項目において、全国平均を上回っている。

○「数と計算」「変化と関係」「データの活用」は東京都の平均に届いていない。

○特に「変化と関係」については6割を切っており、他の項目と比べて点数が低い。

- 毎週水曜日のパワーアップモーニングと毎学期1週間取り組んでいる家庭学習週間では、東京ベーシックドリルの診断テストの結果を基に、eライブラリアドバンスを活用して既習事項の定着に取り組んだ結果、各項目において高い正答率を得ることができた。
- 今後、算数において、①図形の領域を指導する際は、図形の名称や性質が理解できるような取り組みをしていく。まずは、基本図形の面積の求め方や公式の意味をきちんと理解させる。  
②変化と関係の領域では、割合の関係や伴って変化する二つの量の基本的な性質についてきちんと理解させる。
- 中学校の数学にスムーズに入れるように小学校で学んだ基本的な四則計算を徹底して反復させていく。その際、整数だけでなく小数や分数の四則計算などについても進学までに定着できるように取り組ませていく。

## 理科

	全体	エネルギー	粒子	生命	地球
本校	72%	58.9%	69.5%	83.7%	70.6%
東京都	65%	53.4%	62.4%	77.4%	67.7%
全国	63.3%	51.6%	60.4%	75.0%	64.6%

○全ての項目において、全国、東京都いずれも平均を上回った。

○特に「粒子」については、全国を9ポイント上回る結果となった。

また、「生命」についても8割以上の平均となっている。

○「エネルギー」については6割以下と、他の項目と比べて点数が低い。

- 問題解決型学習の流れを全単元で強調して取り入れて学習を進めた結果、考察をする力・学習問題に対して結論を出す力がきちんと身に付いてきた。
- エネルギーについては、3学年で学習した「光と音の性質」が定着していないことが分かったので、きちんと復習して要点を押さえるようにする。
- 安全かつ正確に学習を進めていく上でも、実験器具については、名称はもちろん正しい使い方を改めて確認し、中学校進学以降も実験器具を正確に使えるようにしていく。